

平成26年5月13日

島根県知事 溝口善兵衛 様

神戸川再生推進会議
会長 林 要

神戸川再生宣言について

初夏の候、貴殿におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、神戸川再生運動に対しましてご理解ご指導を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、私たち神戸川再生推進会議は、平成24年7月に結成以来、郷土の貴重な河川である「神戸川」の再生のために来島ダムからの潮発電所への分水廃止を求め、今日まで運動を継続してきているところです。この間、県当局、中国電力株式会社等関係機関との意見交換会等を実施してきたところです。しかしながら、分水継続を主張する中国電力(株)との隔たりは大きく、私たち流域住民が納得できる結論に達していないのが実態です。

こうした中、私たちは再度流域住民の神戸川再生にかける強い思いを結集し広く啓発していきこうと平成26年4月29日、約700名の参加のもとに総決起大会を開催しました。この席上、今後の運動方針の確認、運動方針を踏まえた「宣言書」の採択を行ったところです。

つきましては、別紙「宣言書」のとおり私たちの総意をご理解いただき、何卒適切なお判断を賜りますよう衷心からお願いいたします。

神戸川再生宣言

自然の仕組みを破壊する来島ダムから潮発電所への分水を廃止し、少なくとも60年前の神戸川の自然を再生することを目指し、私たち神戸川再生推進会議は、平成24年7月に結成した。その後、署名活動、総決起大会、デモ行進、また、島根県、出雲市、中国電力株式会社への幾度にもわたる公開請求、質問書の提出、あるいは各機関との意見交換などを進めてきたところである。

この中で、私たちは分水の自然環境への影響、中国電力(株)の河川法、水利使用規則に対する違法性などの問題を強く指摘してきているが、今もってきちんとした回答を得ていないのが実態である。

分水開始以来58年の時間が経過している。流域住民誰しもが神戸川の荒廃に心を痛め、一日も早い清流の再生を願っている。そのために「分水の即廃止」を強く求め続けてきたが、廃止に至る手立てには時間が必要であると考え、苦渋の決断ながら私たちの強い意思を下記のとおり宣言する。

- 一、来島ダムから潮発電所への分水は、5年後に廃止する。
- 一、廃止までの5年間は、神戸川の水質悪化、下流部での農業用水の不足、鮎など魚類の減少、河口閉塞などの課題には、可能な限り来島ダムの水を神戸川に返すことで対処することを求める。

平成26年4月29日

神戸川再生推進会議総決起大会